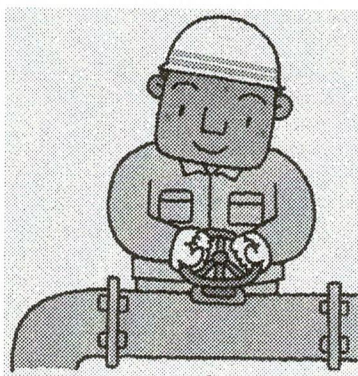


奥州金ヶ崎行政事務組合定例会

上下水道の国交省の緊急点検の結果と対応は？



国土交通省は、1月の能登半島地震を受けて、全国にある上下水道の緊急点検結果を公表しました。

激しく損傷すると上下水道システム全体が機能不全となる「急所施設」と呼ばれる8種類の施設も全国で点検されました。

耐震化率がもともと低かったのは導水管 34%、ほかにも半数割れが目立ち浄化施設 43%、取水施設 46%、下水道施設 43%などとなっています。

県内で最低は取水施設 42%、ほかは導水管と浄化施設が 45%などで最も高いのは下水道管路の 96%だったと発表されています。

11月12日、奥州金ヶ崎行政事務組合議会の令和6年第2回定例会が開かれました。瀬川貞清議員は、国土交通省が発表した上下水道の緊急点検にかかり、行政事務組合管内の状況と対策について質しました。

施設での耐震化の

状況と今後の対策は？

瀬川議員はこれらの数字を示したうえで、奥州金ヶ崎行政事務組合が管轄する施設での耐震化の状況と今後の対策の考え方について質問しました。

倉成淳管理者は以下の通り答えました。

「当組合の水道管路は、水源である胆沢ダムから浄水場までの導水管と浄水場から構成市町の配水池までの送水管を合わせた総延長は約 58 km である。

このうち耐震適合化の総延長は約 57 km であり、耐震適合率は 99%と全国平均約 44%を大きく上回っている。

今後の対策については耐震性のない管路は約 700 メートルであり、管路全体の 1% である。耐震化率 100% を目指すべきところであるが、現

民報
おうしゅう

読者版

発行
所 旗奥出張所
水沢大手町3丁目59
Tel 24-2021
Fax 24-2049

奥州市「重要建物に接続する
水道・下水道管路の耐震化率」ゼロ%！？

11日付けの県内紙の1面で、「県内災害拠点 水道耐震化 8%」と大きな見出しで報じられ、2面では、「重要建物に接続する水道・下水道管路の耐震化率」の表で、その割合が奥州市は「0%」と記載されています。

「能登地震で重要性再認識」され、「23年度末時点」の国土交通省の「検査結果」として公表されたことを受けて報道されました。



「重要建物」としては、公共下水道工リア内の上下水道で、各病院県立胆沢病院、同江刺病院、総合水沢病院、奥州病院、石川病院と一次避難所(水沢・南・常盤・姉妹・江刺愛宕各地区センター、江刺・前沢総合支所)などが対象になっています。

耐震化率は、重要建物とされる施設への水道管では、13路線約 120 km あり、この各路線で、全体が耐震基準を満たしている路線がないためゼロ%となっています。管路の耐震化率 43%となっています。

(奥州市水道部説明より)

「急所施設の耐震化状況」

水道	〇取水施設	37%
	〇導水管	36%
	〇浄水施設	37%
	〇送水管	22%
	〇配水池	91%
下水道	〇下水道管路	100%
	〇下水道処理場	0%
	〇ポンプ場	なし

※「急所施設」…施設の機能を失えば全体の機能を失う最重要施設

国土交通省「上下水道の耐震化状況に関する緊急点検結果」令和6年11月 上下水道審議官グループより

在、胆江浄水場は第3期工事を実施中であり、耐震化率 100% は第3期工事終了後にとりくみたいと考えている」

料金引き上げはないか？

瀬川議員は、さらに、「残りの耐震化工事については、料金の引き上げなどをしないで進めることができる」と理解してよいものかと質しました。

担当者は「国も対策の援助をする」と表明している。交付金の活用や起債も見込んでいることから、料金の引き上げ等は見込んでいない」と答えました。



日本共産党
参議院議員
紙 とも子

60周年記念大会・祝賀会

11月7日、ぎよさい(漁業共済制度)創設60周年記念大会・祝賀会が行われ参加し、党を代表して挨拶しました。漁業共済制度は昭和39年に創立されて以来60年を迎えています。東日本大震災、最近では能登半島地震など、大規模な災害の度に、大きな被害から救済するために果たしてきた役割は大きく、最近の気候変動の影響で魚や昆布の不漁など、漁業者の経営や生

11月7日

活を支えるためにも、重要です。現場の実情にあった使いやすさのものにしていくように力を合わせたいと挨拶しました。



Facebook より